

第154回 大原美術館 ギャラリーコンサート

Tsuyoshi Tsutsumi & Mami Hagiwara Duo Recital

堤 剛 & デュオ・リサイタル
萩原 麻未
チェロ ピアノ

© 鍋島徳恭

Program

ベートーヴェン
チェロ・ソナタ 第4番 ハ長調 Op.102-1
メンデルスゾーン
協奏的変奏曲 ニ長調 Op.17

酒井健治
レミニサンス / ポリモノフォニー
〔堤 剛 委嘱作品 - 2018年初演 - チェロ独奏〕

ラフマニノフ
チェロ・ソナタ ト短調 Op.19

2019年

3月2日(土) 開場18時/開演18時30分

大原美術館・本館2階ギャラリー

全自由席 5,000円(税込)

【定員200名】

学生シート1,000円(税込)【小学生~25歳までの学生対象・限定先着30席】

チケット発売 2月5日(火)9時~

※公演当日、入場時に学生証の提示をお願いいたします。

お申し込み・お問合せ

大原美術館 TEL086-422-0005

*月曜休館(ただし、2/11は開館)

くらびのまち

TEL086-422-2140

*土・日・祝日休業

協賛 丸五ホールディングス株式会社

©Marco Borggreve

第154回 大原美術館 *キラリコンサート*

Tsuyoshi Tsutsumi & Mami Hagiwara
Duo Recital

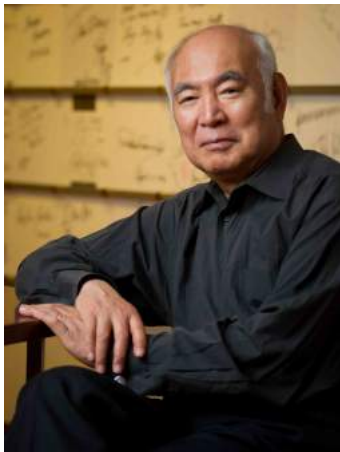
春宵、 奇跡の デュオ

日本チェロ界の重鎮、堤剛(つづみ・つよし)さんと、2010年のジュネーヴ国際コンクール(ピアノ部門)で日本人初の優勝に輝いた、現在最も注目される若手ピアニストのひとり、萩原麻未(はぎわら・まみ)さんの、世代を超えたデュオが注目されています。

堤さんが「新しい自分、新しい表現を発見できる相手」として、演奏の色彩感や間のセンスを高く評価し、共演を熱望したという萩原さん。圧倒的なテクニックで生き生きと奏でられるピアノと、巨匠の重厚なチェロが情感豊かに共鳴します。

今回は、堤さんが国際的な作曲家・酒井健治さんに委嘱し、2018年に世界初演をおこなったチェロ独奏曲(J.S.バッハ「無伴奏チェロ組曲」第5番のサラバンドをモチーフとした変奏曲)が披露されるほか、ラフマニノフのチェロ・ソナタでは、初演で作曲者が自ら演奏した充実のピアノパートも聴きどころ。高度な技術と卓越した音楽性のみが表現し得る濃密なロマンティズムは必聴です。

各地で絶賛されているお二人の息の合ったアンサンブルを、早春の大原美術館で心ゆくまでお楽しみ下さい。



© 鍋島徳恭

堤剛 (チェロ) *Tsuyoshi Tsutsumi, Violoncello*

名実ともに日本を代表するチェリスト。桐朋学園子供のための音楽教室、桐朋学園高校音楽科を通じ齋藤秀雄に師事。1961年アメリカ・インディアナ大学に留学、ヤーノシュ・シュタルケルに師事。1963年ミュンヘン国際コンクール第2位、カザルス国際コンクール第1位入賞。日本、北米、ヨーロッパ各地、オーストラリア、中南米など世界各地で定期的に招かれている。2009年秋の紫綬褒章を受章。同年、天皇陛下御在位20年記念式典にて御前演奏をおこなった。2013年、文化功労者に選出。2016年度毎日芸術賞受賞。2018年9月、文化庁創立50周年記念表彰。インディアナ大学教授(1988年～2006年)、桐朋学園大学学長(2004年～2013年)を歴任。『J.S.バッハ: 無伴奏チェロ組曲全曲』など録音多数。2017年にはピアニスト萩原麻未との『フランク & R. シュトラウス: ソナタ』(マイスターミュージック)がリリースされ、絶賛を浴びている。現在、サントリーホール館長、霧島国際音楽祭音楽監督、韓国芸術大学客員教授、桐朋学園大学特命教授、日本藝術院会員。

萩原麻未(ピアノ) *Mami Hagiwara, Piano*

2010年第65回ジュネーヴ国際コンクール(ピアノ部門)において、日本人として初めて優勝。年によって1位を出さないこの伝統あるコンクールでの8年ぶりの優勝者となった。

広島県出身。第27回パルマドーロ国際コンクールにて史上最年少の13歳で第1位。広島音楽高等学校を卒業後、文化庁海外新進芸術家派遣員としてフランスに留学。パリ国立高等音楽院及び同音楽院修士課程、パリ地方音楽院室内楽科、モーツァルトウム音楽院を卒業。

現在、日本、フランスを中心に、スイス、ドイツ、イタリア、ベネズエラ、ベトナムなどでソリスト、室内楽奏者として演奏活動をおこなっている。これまでに、バスカル・ロフェ指揮/スイス・ロマン管、フランス国立ロワール管、フランスワグザヴィエ・ロト指揮/南西ドイツ放送響など国内外のオーケストラと度々共演を重ねているほか、スイスのジュラ・フェスティバル、フランスのラ・ロック・ダンテロン、ラ・フォル・ジュルネ(ナント/日本)などさまざまな音楽祭に招かれている。



© Akira Muto